

# 2026 年度第 1 回 JSCE2025 運営企画会議 議事録

日時：2026 年 7 月 10 日(金) 14：40～15：40

場所：土木学会 EF 会議+Zoom

出席者：小澤委員長、熊本副委員長

菊地、蓮輪、森口、泉、木下、能島※、高橋※、齊藤(誠)、井上、  
美藤(藤井代理)、勝地、齊藤(武)、三輪 の各理事  
柳川、岩西、二瓶

※印：Zoom

## [議事]

冒頭、議長から開会の挨拶があり、資料共有を確認した後、議事に入った。

### 1. 運営企画会議の設置趣旨及び検討体制

- ・2025 年度まで「JSCE2025 特別委員会」として進めていた検討を、2026 年度から正副会長会議の下に置く「JSCE2025 運営企画会議」として継続する旨の説明があった。
- ・JSCE2025 (2025～2029 年度) に基づき、学会運営、組織、予算、会員制度、事務局体制、規程・手続、活動評価及び予算配分等を幅広く見直し、将来に向けて学会を進化させることが目的であることが確認された。
- ・検討は、各部門を基本単位とし、部門内で解決できない課題又は学会全体で扱うべき課題を部門横断ワーキングで検討し、制度・組織の変更が必要な事項は理事会で決定する三層の仕組みで進めることとした。
- ・各部門は、昨年度に整理した現状・課題及び 2030 年頃までを見据えた取組案を踏まえ、活動の棚卸し、改善事項及び根本的な見直し事項の検討を進める。

### 2. 部門横断ワーキングの設置

学会全体で検討すべきテーマとして、次の 5 つの WG を基本に検討を進める方針が示された。

| ワーキング          | 主な検討内容                                                                                               |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| DX 推進          | 会員向けサービス及び基幹情報システムの段階的刷新、事務局業務の効率化、会員サービスの向上、AI 活用、学会全体の情報・資料の DX を検討する。                             |
| 技術者教育          | 小・中・高校生、教員・保護者、大学・高専生、実務者、異分野からの転職者及び外国人材等を対象とする教育サービスを検討する。CPD・JABEE にとどまらず、DX・ICT・AI 活用を含む能力向上を扱う。 |
| 運営体制           | 社会や会員ニーズの変化に柔軟に対応し、定期的な見直しが可能な組織・委員会・運営方法を検討する。                                                      |
| 財務戦略           | 中長期的に健全な学会運営を継続するため、財務戦略、予算管理、資源配分及び収入基盤のあり方を検討する。                                                   |
| エコシステム（異分野間連携） | 部門・専門分野・学会内外の組織や人材をつなぎ、新たな価値や取組を生み出す仕組み及び若手が連携を経験できる場を検討する。                                          |

**確認事項：**各ワーキングは、関係する担当理事の中から取りまとめ役を定め、議長及び次期会長も原則として各ワーキングに関与する。担当分担、日程及び事務局の支援体制は整理の上、改めて案内する。

### 3. 今後の進め方

- ・運営企画会議は、各部門の検討内容を共有するとともに、学会全体に関わる問題を提起し、部門横断で議論する場とする。理事会開催日に合わせて開催する。
- ・各部門会議では、主査理事が中心となり、部門内の課題の棚卸し及び中長期的な計画の検討を開始する。通常の部門運営との両立を踏まえ、幹事・構成員と相談して実行可能な進め方を定める。
- ・12 部門からの報告は、1 回に集中させず、例えば 4 部門ずつ 3 回に分けるなど段階的に実施する。第 6 回頃には、次年度以降につながる計画を含めた報告を行う案が示された。
- ・ワーキングの進捗及び検討結果は、テーマごとの進め方に応じて運営企画会議へ適宜フィードバックする。

### 4. 意見交換

#### (1) 会議・ワーキング間の情報共有

- ・各部門、運営企画会議及び各ワーキングの参加者が異なるため、情報共有の偏りを防ぎ、他ワーキングの検討状況も確認できる仕組みが必要との意見があった。
- ・運営企画会議の議事録は速やかに関係者へ共有する。ウェブファイルマネージャーは担当理事等が閲覧できるようにし、ワーキング資料も同じ場所で共有する。非公開事項を除き、可能な限り透明性を確保する方針が確認された。

#### (2) DEI、土木教育センター及び技術者教育

- ・教育企画部門から、前年度に部門横断的な検討事項として示された DEI 及び土木教育センターの進め方、並びに技術者教育・エコシステムの各ワーキングにおける担当者・取りまとめ方法を明確にしてほしいとの意見があった。
- ・土木教育センターについては、教育企画部門内で、センターとして設置することが適切か、既存の部門・委員会で分担することが適切かを検討し、部門内で決められない事項を運営企画会議へ提案する。
- ・DEI の学会全体における適切な位置付けは、運営企画会議で議論すべき課題として取り扱う。

#### (3) DX 推進及び本部・支部のシステム連携

- ・支部ではホームページ、X、Facebook 等を個別に運用しており、本部のシステム刷新後に利用できる機能や、支部が意見を出す時期を明確にしてほしいとの意見があった。重複投資を避け、本部・支部を通じた全体最適を図る必要が指摘された。
- ・会員情報システム等は一括更新ではなく複数システムに分けて段階的に進める。ホームページについてはトップページの改善を先行して実施する。支部との意見交換は各支部ごとに 1 度行っただけなので、情報の共有は今後適宜行いたいと思う。

#### (4) 部門・ワーキングの実務負担

- ・主査理事の交代等により過去の経緯を十分把握できていない部門もあること、通常業務を行いながら 2030 年頃までの計画策定と横断ワーキングへの対応を行うことは相当の負担になるとの意見があった。
- ・各部門は、既存の部門会議の時間及び体制を確認し、幹事・構成員と相談しながら実行可能な検討方法を提案する。運営企画会議及び事務局は、必要な調整・支援を行う。

#### (5) 中長期の経営・財務・会員戦略及び組織継続性

- ・単年度の予算編成・執行管理だけでは改革を進めにくいと、企業の経営計画に相当する中長期計画を学会として明確にし、情報システム等の施策、各部門の計画及び予算配分を連動させる必要があるとの意見があった。

- ・各部門の目標・成果指標、必要予算及び成果評価を結び付け、学会全体をマネジメントする仕組みへ移行する必要性が共有された。成果に応じた資源配分やインセンティブの考え方も今後検討する。
- ・寄附は使途が限定される場合があるため、使途制限のある財源と柔軟に活用できる財源を整理し、寄附獲得の目標及び戦略を具体化する必要がある。
- ・会員数の維持・増加及び会費収入の確保を重要課題とし、学会共通の数値目標と部門別ロードマップを設定する必要があるとの意見があった。
- ・事務局職員及び学会活動を支える会員の年齢構成を踏まえ、次世代の人材を確保・育成し、組織の継続性を確保することが重要な検討課題として共有された。

#### 5. 確認事項・今後の対応

- (1) 事務局：本会議の議事録を共有し、ウェブファイルマネージャーを関係者が閲覧できるよう速やかに整備する。各 WG の担当者を決定し、第 1 回会議の日程調整を速やかに行う。
- (2) 会長・次期会長・事務局：各ワーキングの取りまとめ役、担当分担、日程、事務局支援及び報告方法を整理し、関係者へ順次案内する。
- (3) 各部門：次回会議に活動計画を報告。2030 年頃までの中長期計画及び学会全体の課題を整理し、第 3 回以降報告。
- (4) 各ワーキング：進捗及び検討結果を運営企画会議へ第 3 回以降適宜報告する。

#### 6. 次回会議

- ・今回は、2026 年 9 月の理事会開催日に合わせて開催する予定とする。
- ・質問、要望又は提案がある場合は、次回を待たずに事務局又は議長へ連絡する。

以上